

今日のトピック トランプ米大統領就任前後の米国の債券市場 長期金利は落ち着いた推移となる見通し

ポイント1 国債利回りは小幅に低下 大きな波乱は見られず

- 米国10年国債利回りは、大統領選後に財政支出の拡大期待を織り込む形で昨年中旬まで上昇しましたが、その後は緩やかな低下基調で推移しています。今年1月20日にトランプ氏が大統領に就任しましたが、財政政策への具体的な言及がなかったことなどが、その背景です。
- 直近1月23日の10年国債利回りは2.40%となり、昨年末の2.44%から小幅な低下（国債価格は上昇）となりました。

ポイント2 社債も堅調に推移 国債利回りとのスプレッドが縮小

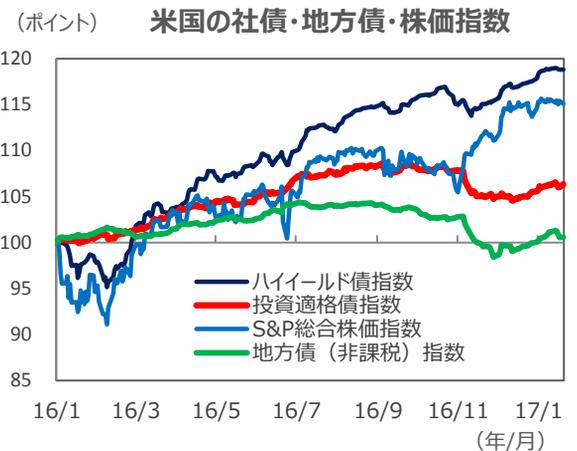
- 景気の順調な拡大に加え、物価上昇率も低い水準で落ち着いていること、世界経済に大きな波乱がなく、リスク回避の動きが後退したことなどから、社債スプレッド（国債と社債の利回り差）は縮小傾向を辿りました。
- 大統領選以降で見ると、特に利回りが最も高いハイイールド債のパフォーマンスの良好さが目立っています。

今後の展開 金利は落ち着いた推移へ

- トランプ大統領が、財政支出拡大による景気刺激を行うと見られるため、国債利回りには上昇圧力がかかる局面があると考えられます。ただし、政策の具体像が見えてくるにつれて期待はやや後退し、金利はレンジ内での推移になる見通しです。一方、社債には、相対的に高水準の利子収入が得られる資産として資金流入が続く見込みです。



(注1) データは2016年1月4日～2017年1月23日。
(注2) 米社債スプレッドはBloombergバークレイズ米国社債指数ベース。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注1) データは2016年1月4日～2017年1月23日。
(注2) 債券指数はいずれもBloombergバークレイズ債券指数。2016年1月4日 = 100として指数化。指数は株、債券ともトータル・リターン指数。トータル・リターンは、価格の値上がり益に再投資された利子・配当を加えた総合的な収益。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2017年 1月18日 最近の指標から見る米国経済 (2017年1月)
2017年 1月 6日 「FOMC議事要旨」と金融政策 (米国)

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。